高等学校グランドデザイン会議第３回西北・中南地区部会概要

日時：平成１９年　２月１４日（水）
　　１３：００～１５：００
場所：弘前合同庁舎Ａ会議室

＜出席者＞
　野呂部会長　竹林副部会長　大平委員　工藤委員　櫻庭委員　藤田委員

● 開会

司会
　それでは定刻になりましたので、「高等学校グランドデザイン会議　第３回西北・中南地区部会」を開会いたします。次第によりまして、検討会議及び専門委員会の概要説明ですが、検討会議について野呂部会長から説明をお願いします。

● 検討会議・専門委員会概要説明

【部会長から、配布資料に基づき説明】

司会
　続きまして、専門委員会について事務局から説明をお願いします。

【事務局から、配付資料に基づき説明】

司会
　それでは次第によりまして、意見交換に入りたいと思います。ここからは野呂部会長に進行をお願いしたいと思います。

● 意見交換

野呂部会長
　事務局から説明がありましたが、何か質問はありませんか。まず、今までは適正な学級数などについて話してきましたが、今日は第１専門委員会の校舎制の今後の方向性、定時制の今後の方向性についての意見交換、前半部分をこれに充てたいと思います。第２専門委員会の学校連携の今後の方向性については、後半に意見交換します。まず最初

に第１専門委員会からの、校舎制の今後の方向性についてですが、資料３は事前に配布されていますので、これについて何かありませんか。
　第１専門委員会の意見としては、校舎制の存続は難しい状況だから統廃合もやむをえないと考える、しかし、交通の便を考えると存続してもいいのではないか、という事が挙げられていますが、その辺について委員の意見は何かありませんか。

竹林副部会長
　難しいですね。経済的な事を考えると校舎制があった方がいいですし、かと言って、生徒にきちんと教育をしようとすると、果たして教員が充足するかと考えると非常に難しいです。文部科学省の教員の配置基準もあるのでしょうが、県独自に教員を配置可能なのであれば校舎制も存続していいのではないかと思います。
　もう１つは、経済的に苦しいから校舎制の学校に行くのかというと、そうではないという気が多少します。保護者は大変なのですが、下宿させたり何らかの方法で通わせたりします。ですから、今は全ての中学生が希望すれば高校に入れるという状況ですが、それが果たしていいのかどうか、考えなくてはいけない気がします。

野呂部会長
　他にありますか。

事務局
　補足ですが、第１専門委員会では、来年度以降に校舎制の学校が１０校できるが、近隣の学校に通える学校とそうでない学校という区別が必要なのではないか、全てを同じに括ると議論が進まない事もある、という話もありました。それから、校舎制の学校について一通りお話すると、東青地区では平内高校と今別高校、西北五地区では五所川原東高校と深浦高校、中弘南黒地区では大鰐高校と藤崎園芸高校、上十三地区では八甲田高校、下北むつ地区では川内高校と大畑高校、三八地区では南郷高校に導入されます。

野呂部会長
　これは、第２次実施計画の中で行われるのですね。

竹林副部会長
　深浦高校と五所川原東高校を考えた時に、全然状況が違う訳です。五所川原東高校は通える範囲ですが、深浦高校は天候が悪いと電車も止まるくらいで全然駄目ですので、先程言ったように同じように括る事はできないと思います。

野呂部会長
　これは第１専門委員会の意見の中にもありました。交通等の面で特殊事情がある学校

については存続しても良い、という意見もあります。第２次実施計画の中ではそう計画されており、現実に来年度から校舎制は導入されます。しかし、無くなる学校も一部はありますが、それ以外については方向性として全てが無くなる訳ではない、というのが今の段階です。という事で、第２次実施計画での導入後、今後はどうするべきでしょうか。

Ａ委員
　深浦高校については、今言ったように五所川原東高校とは状況が根本的に違うと思います。財政的な問題もあるのでしょうが、やはり距離的に見て校舎化は認めざるをえないのかなという感じはします。いい大学を目標とする生徒は、お金をかけても希望する高校の近くに下宿して通うとか、そういう努力はされるでしょうから、問題は無いと思いますし、状況を見ながら、必要な所は認めるという柔軟な対応をせざるをえないのではないでしょうか。

Ｂ委員
　難しい大きな問題です。この問題に関してはそれ程問題は無いのではないかと思います。ただし、やはり生徒が自分で行きたい学校を選んで行くという方向性にならざるをえないでしょうから、先程から言っているような、通学の便やそういう部分についての議論が出てくると感じます。ただ、どういう方向性で、どのくらい校舎化して行くという部分については、また大きな議論が出ると感じます。

Ｃ委員
　校舎制の問題についても、将来の方向性は良く分かりません。確かに、親の目から見ると高校は卒業させたいという考え方もあるし、子どもにしても高校は卒業しておきたいという考え方もあります。高い教育を受けたい人と、高校を卒業しておきたい人など、色々な考え方があると思いますし、経済的な問題もあると思います。このような社会情勢の中で、西北・中南地区では五所川原東高校は良く分からないのですが、深浦高校、大鰐高校、藤崎園芸高校は地理的にもやはり残しておくべきだと思います。ただし、少なくとも小学校のような義務教育とは違いますので、高校教育レベルの教育をするためには適正な教員配置が必要です。その意味では、保護者が要望して校舎を残したが、教員は配置できないという事では困ります。ある一定数までは先生をきちんと配置しておかないと、子ども達へのしっかりした教育はできないと思いますので。ただし、果たして１０～２０年後もこの校舎が必要なのかは、時間が経ってみないと結論は出ないと思います。先程も言いましたが、少なくとも高校が義務教育化していますので、親が子どもに高校を受けさせたいと考えるのは当然だとも思いますが、もう少し推移を見て方向性を決めるべきではないでしょうか。

Ｄ委員
　存続しても仕方がない所もあるとは思いますが、やはり同じ教育水準で教育を受けられるように教員を配置して欲しいです。しかし、１０年後には生徒数が減るのが見えているので、いずれは統廃合も考えて行かなくては駄目だと思います。難しい問題です。

野呂部会長
　高校の教育水準を維持するためには適正な教員配置が必要でしょうし、その一面、経済的な問題や交通の便等を考えると、何とも言い難いです。方向性としては、しばらく見ざるをえないのではないでしょうか。なかなか難しい問題です。今まで話してきた適正な学級数とも噛み合ってくる訳ですが、前に我々が話した中では４～６学級辺りが教育効果を高めるためには適正だという事で、それが基準になっているようですが、それに対して校舎制というものもなかなか難しいです。

Ｃ委員
　義務教育を考えると、１～５級の僻地であっても均等に教育を受けさせてもらえます。高校では授業料という使用料を払って授業を受ける訳ですから、均等にしっかりとした教育を受けられる環境が必要です。また、魅力ある学校作りを先生と生徒が一体となって進め、校舎制の学校でも一生懸命やる事でそれなりの成果を残す事ができるという事を外部に見せて、やはり必要な学校だと思わせる事が、これからの県教育委員会と先生の使命ではないかと思います。

Ａ委員
　五所川原東高校ですと、五所川原高校からは１５分くらいですから、深浦高校とは状況が違いますので、校舎として残さない代わりに定期の学割に若干の補助を出す事等で校舎制をとらなくても対応ができるような感じがします。深浦高校になると学校までの距離があるので、地理的条件を考えるとそのような事をしてもあまり意味が無いように思います。
　やはり、通学のための費用負担の面倒を見てもらえるような配慮が可能であれば、一般的には校舎制は無くてもいいのかなという感じもします。

野呂部会長
　第２次実施計画での校舎制導入の時から大分騒ぎがあり、色々な問題もあり意見が高まったようですが、それが実際に走っている訳です。そこで、これからの方向性となるとどうなるべきなのでしょうか。

Ｃ委員
　それはこれからの問題だと思います。校舎制の学校が魅力ある学校を目指して行く事

で、特徴ある学校として受け入れられる事もあるかと思うのです。それでもどうしても駄目なのであれば統廃合という話が出てきます。今ある校舎制の学校における魅力ある学校作りを、まず教職員が一丸となってやって行くという事を、我々から県教育委員会に申し上げたいと思います。

竹林副部会長
　平成２１年度以降についてであれば、もう少し様子を見ようという訳にはいかないですよね。

事務局
　地区の意見として様子を見て、という事であればそれはそれでいいと思いますし、やはり学校によって残すべき学校とそうでない学校がある、という事でもいいと思います。五所川原東高校について説明が足りませんでしたが、平成２０年度に募集停止をする事が決まっています。来年の話なので確定ではありませんが、閉校が予定されています。

野呂部会長
　閉校が決まっているのは五所川原東高校だけですね。

事務局
　そうです。第２次実施計画の中で出された、市部の学校で３学級以下は募集停止、という基準により五所川原東高校が対象になりました。それ以外の学校についての方向性は無い状態ですので、地域の意見として一緒に話題にしていただきたいと思います。

竹林副部会長
　市部の学校で３学級以下は募集停止、という基準が出てきたのですよね。結局、ある程度の基準を出しておかないと駄目だという事ですよね。

野呂部会長
　まず、１ページの校舎制の今後の在り方ですが、実際に校舎化される１０校の中で、五所川原東高校は平成２２年の春で閉校になるという事です。あとの９校についてはどうなるのかと言うと、今の感じでは状況を見て対応という事になるでしょうか。

Ｃ委員
　ここは西北・中南地区部会ですので、県全体の事を考える必要はないと思います。そうすると、深浦高校、大鰐高校、藤崎園芸高校をどうするかという事だと思います。まず、深浦高校は地理的問題からもできる限り残すべきだろうと思います。大鰐高校については、大鰐高校自体がどのような学校なのかは分かりませんが、碇ヶ関、大鰐、平川

辺りからもバス等で通えるでしょうし、このくらい市部あるいは地区に学校が固まってあるとすれば、大鰐高校が必要かどうかがこれからの課題になるのでしょう。藤崎園芸高校は特殊な学校なので、２学級として残しそれなりに内容を充実させた農業高校として残して行くべきでしょう。少なくとも青森県や中南地区の基幹産業が農業である以上は、やはりどういう事があっても農業高校はしっかりとステータスを持った学校にして、将来の農業従事者を育てて行く使命があると思います。ですから、当分の間は残していただきたいという要望です。

野呂部会長
　特殊性という事ですか。深浦高校については、地理的な事から考えざるをえないのでしょう。大鰐高校については、良く分かりません。藤崎園芸高校については、特殊なリンゴ科があるという事と、やはりそれが基幹産業である事を考えると残さざるをえない、という事ですね。

竹林副部会長
　今議論するのは、今校舎制になっている学校についてですよね。

事務局
　現在校舎化されている学校はありません。平成１９年度から実際に始まり、平成２２年度までで１０校が校舎化されますので、これについてお話していただきたいのが今のページです。

野呂部会長
　ここが終わったら、次に平成２１年度以降について話し合いたいと思います。具体的には、今年の４月から校舎制が始まるのですね。高校長協会の意見が右に出ていますが、これから第１専門委員会の方でも統廃合の基準について具体的に話し合われる方向なのでしょうか。

事務局
　先般第５回目の第１専門委員会が開催された中では、基準として「２年連続で定員の６０％を割る時」という事が話し合われていましたが、それが結論となるかは検討会議を経なくては分かりません。ただ、その根拠となると難しい所もありますが、やはり何らかの形で基準を示さなければ、県民の方にもなかなか納得していただけないのではという話がありました。

竹林副部会長
　西北・中南地区部会としては、やはり統一性を加味していただきたいと思います。

事務局
　どうしても残さなくてはいけない学校があるという話もありましたが、それについては専門委員会で決めるとか、どこの学校だという話にはなっていません。最終的には、実施計画を立てる段階で事務局が話をまとめると思います。ただ、そういう話があるという事です。

野呂部会長
　特殊性を考えてという方向の意見で良いでしょうか。

Ｂ委員
　その地域や市町村にとって、誰が見ても魅力がある学校という事が大事なのではと思います。その魅力すら無くなって行くと、やはり学校が学校らしくなくなるという認識があります。地元と言うよりも、各市町村と学校が一体となって目指すべきものを持ってやっていけば、統廃合までは至らずに残る可能性は十分あると思います。先程の藤崎園芸高校についても、確かに柏木農業高校などもありますが、ただ藤崎園芸高校についてはリンゴ科があります。これはおそらく全国でも１箇所ではないでしょうか。それであれば、本県は農業主体ですのでそういう部分でもっとアピールし、リンゴ農家を育てているのだという事を強調し、小さい所は頑張るといいのではないでしょうか。

Ｃ委員
　全国にリンゴの産地がある訳ですから、他の産地にも募集をかけるなど、存続の仕方によってはいいのではないかと思います。

Ｂ委員
　中南地区で見ると、弘前実業高校、柏木農業高校などもありますが、同じような事をやるのではなく違ったやり方をするなど、そういう部分を考えれば考える程いい要素がたくさん出てくると思っています。

Ａ委員
　リンゴの何を勉強するのですか。

Ｂ委員
　栽培、農業経営などです。藤崎園芸高校は、柏木農業高校や弘前実業高校の２ランクくらい上の事を実は実習しているのです。農業の後継者としてはそういう高校や試験所レベルの課程を踏んで、本来の農園を仕切る人間ができて行くのです。そういう流れでやれるのだ、という部分はやはりなければならないし、これからもっと強力に構築して

行く必要があります。農業高校ではそういう人を育ててもらいたいです。

野呂部会長
　第２次実施計画の校舎制についてはこれくらいでよろしいですか。次に、今検討している平成２１年度以降の校舎制はどうあるべきか、新たな校舎制導入の可能性という事ですが、これも特殊なものであれば導入を考えるという事になるでしょうか。

Ｃ委員
　同じように考えていいのではないでしょうか。

野呂部会長
　それしか無いですよね。ただ、第１専門委員会の中では、新たな校舎化の導入は考えにくい、という意見もあります。

竹林副部会長
　一定の条件が無いと都市に集中してしまって、周りに全然無くなってしまいます。この論理で行くと深浦高校も無くなってしまいますので、やはり校舎制は無い方がいいのかもしれませんが、特殊事情は認めなくてはいけない気がします。

Ｃ委員
　地域や学科の特殊性から考えると、大鰐高校は地域的にも学科的にも普通ですが、深浦高校や藤崎園芸高校は青森県としては残しておかなくてはいけない学校だと思います。あまり県財政の方からの切り口では特殊事情が見えなくなる面がありますので、ある程度は学科や地理的条件を勘案し特殊性のある学校は残しておかないと困るのではないでしょうか。

Ａ委員
　県としては、予算を何年までにこれくらいにしたいといった大枠の目標なりがあり、そういう財政的な事を含めて検討してくれと言っているのでしょうか。それとも、それとは別に学校の特殊性や生徒数などについて考えるという事なのでしょうか。
　例えば深浦高校について考えてみると、木造高校の始業時間を９時以降にするという方法を取る事で、校舎化しなくても生徒が通えるようになるのではないでしょうか。また、弘前の私立高校が五所川原まで普通にバスで迎えに来ています。そこまで考えて、財政上も何とかしたいという事であれば、冬の時期だけでも始業時間を遅らせても校舎化を廃止するという事も考えられるのではないでしょうか。道路事情も良くなっているのですから。
　ただ、その地域の特性を持った学校を残し、生徒の資質向上も図って行かなくてはい

けないとなると、それは別の次元の話で、財政がかかってもやらなくてはいけないのではないかという議論になってくると思うのです。ですから校舎化の議論に当たって、県としては財政的に少しでも費用負担を少なくしたいという思いで議論をして欲しいのか、それとも、学校の在り方という視点から議論をして欲しいのでしょうか。

事務局

高等学校グランドデザイン会議を立ち上げたのは、財政的に云々という事ではありません。これから子どもの数が減って行くにつれて学校規模もどんどん小さくなる訳ですから、それで適切な教育ができるのでしょうか。教員の数をつぎ込めばいいのでしょうが人件費もありますので、学級が減る中で教員も減らして行った時に、なかなか旨く回らない部分があるのではないでしょうか、という事がそもそもの出発点です。財政的にどっちがどうという事でお願いしている訳ではありませんので、どういった教育を提供するのがいい事なのか、校舎制を残していい教育を提供できるのか、といった議論になるかと思います。先程も言っていましたが、高校を出さえすればいいやという事になる可能性もあると考えた時の折り合い等について、財政的な話しではなく検討をお願いします。

Ｃ委員

教員の人事異動を見ると同一校に何十年もいるような先生が随所に見られますが、少なくとも色々な場所で色々な人と接触しながら、成長し教育指導レベルを上げて行くのだと思います。ですから、少人数の学校での勤務経験も必要だと思いますので、そういう学校があってもいいような気がします。教員の研修の一環として必ず小規模校に勤務するような形で存続させる、という事も不可能ではないと思います。

野呂部会長

難しい所ですが、一定の教育水準を考えると、やはりできるだけ校舎制は避けた方がいいのではないでしょうか。ただし、特殊な事情を考えるとどうしても残さざるをえない学校も当然出てきます。先程と同じような内容になるのですが、その辺でどうでしょうか。もし新たに導入するのであれば、一定の基準を決めた上で導入するという事になるでしょう。

事務局

何を基準にするかについては、我々内部でも、通学に要する時間、経費等色々意見はあるのですが、実際問題としてその基準で切れるのか、という事があります。例えば通学時間を１時間半を基準にすると、１時間３１分では通えなくて１時間２８分では通えるのか、という事がありますので、具体的な数字的基準で校舎制を区別するのは難しいのかなと思います。

Ｃ委員

　ある意味では、最終的には政治判断だと思います。今の校舎制の問題にしても、県内の教育レベルの維持向上を図り人材を輩出するという使命がある訳です。色々な意見を聞いているとどちらが本当の話だ、という事になりますので、最終的には政治判断になると思います。

野呂部会長

　一定の基準についてはなかなか難しいと思います。それでは１０分間の休憩を入れます。

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰　休　　憩　〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

野呂部会長

　それでは、定時制の今後の方向性について、意見交換に入ります。

竹林副部会長

　働き方も多様になっていますから、できれば残しておきたいと思います。できれば、単位制みたいな形である程度いつ行ってもいいようにすれば、尚更いいと思います。

事務局

　定時制の学校は基本的に単位制ですので、厳密に言うと学年の区切りは無く、３年間という最低年限はありますが必要な単位を取ると卒業できます。ただ、先程言ったように、昼行ったり夜行ったりできるのは青森市の北斗高校と、八戸市の八戸中央高校だけで、あとの学校は行く時間が大体は決まっています。単位制なので必要な分でいいとは言っても、開講している時間に学校へ行かないと単位は取れませんので、実態として通信制や国が行っている高卒程度認定試験を利用して、本来は４年で卒業する所を３年で卒業できるようにしています。

野呂部会長

　三修制と表現しますが、定時制と通信制と高卒程度認定試験を利用するのです。しかし、実際は３年で卒業という事はなかなか無く、３年半はかかります。３年で卒業できるのは、全日制で大分単位を取って定時制に来て、通信制もやりながら勉強するとできるかもしれませんが。副部会長が言ったように、多様化していますので残すべきでしょう。

Ｃ委員
　西北・中南地区で、夜間の定時制はどれくらいあるのですか。

野呂部会長
　五所川原高校、黒石高校、弘前中央高校、弘前工業高校が夜間です。尾上総合高校は昼間で、市立ですが金木高校市浦分校もあります。

事務局
　そういう意味では、西北・中南地区にはかなりの数の定時制があります。

Ａ委員
　自分の都合に合わせて昼も夜も通う事はできないのですね。

野呂部会長
　そうですね。三部制を取っている学校は行けますが。

Ｃ委員
　昼間の定時制はどこですか。

事務局
　尾上総合高校と市浦分校です。

野呂部会長
　昔の勤労学徒というイメージからは変わって来ています。就職しながら学校へ通っているという生徒が何割なのか、事務局で掴んでいますか。私が知っている範囲では、３割程度いるかどうかだと思います。

Ａ委員
　何年か遅れてでも勉強したくなって入学するとか、高校を途中で辞めたけど２年くらいしてからまた定時制で勉強するとか、年齢的にも開きがあるのではないですか。

事務局
　多様な構成になっています。

Ａ委員
　そういう点でも、身近に定時制高校があるという事が必要なのではないでしょうか。

竹林副部会長
　５０歳過ぎで働いている方が、卒業証明をくださいという事で来た事もあります。

野呂部会長
　全日制を中途退学してとか、全日制から転校するという事もあるでしょう。

Ａ委員
　定時制から全日制への転校は可能なのですか。

事務局
　受け入れる学校の校長先生が単位を認定すれば可能ですが、教育課程が若干違っているので、全日制の教科書について行けるのかどうかという部分もありますので、そこは学校の判断になります。
　以前の資料にあるのですが、西北地区では定時制の募集枠は五所川原高校と市浦分校を合わせて８０人ありますが、実際に平成１８年度に入学したのは１８人です。中南地区では黒石高校、弘前中央高校、弘前工業高校、尾上総合高校を合わせて１６０人の募集の枠に対して、８４人しか入っていないのが現状です。

Ｃ委員
　工業高校の定時制はどうなっていますか。

事務局
　弘前工業高校は平成１８年度に募集人員を１２０人から４０人にしたのですが、２３人しか入りませんでした。

Ｃ委員
　それでも２３人はいるのですね。

事務局
　平成１７年度には１２０人募集に対して３５人が入っていましたから、それを考えるとやはり減る傾向にあります。

Ａ委員
　年々下がってきているのですね。

事務局

低く安定していると言いますか。授業は毎日やっていますので、毎日学校へは行く必要はあるのですが。

Ａ委員
工業高校の定時制は、工業高校のカリキュラムによった定時制なのですか。それとも、普通高校のようなカリキュラムで、学校が工業高校であるという感じなのですか。

事務局
工業高校の専門的な科目を勉強しています。工業技術科という名前で、専門の中の基礎の部分を学んでいます。

Ａ委員
実習は全日制に混じってやるのですか。

事務局
夜に実習をしています。

Ｃ委員
工業系に勤めている人はどれくらいいるのですか。

野呂部会長
資料を見ると、工業高校の定時制の役割は終わったと考える、という意見があります。

事務局
中学校を卒業して働かないで工業高校の定時制に入学しても、就職は全日制の方から決まって行くという事です。また、今は中卒者を正社員として採る所は少ないようですので、昼に工業系の会社で働いて、夜は工業高校の定時制に通い高卒の資格を取るというスタイルではないのではないか、と見ています。

野呂部会長
今東京辺りでは、チャレンジ校と言いますか、そういう方向付けの学校も出てきています。

Ａ委員
人数は少なくても、相当な思いで入学しているのでしょうから、やはり工業高校の定時制も無くしてはいけないでしょう。そういうやる気のある生徒にチャンスを与える事が、教育として必要だと思います。

野呂部会長
　青森市の北斗高校は３部制ですよね。かなり応募が多いのではないですか。

事務局
　午前、午後、夜で４０人ずつ１２０人の定員なのですが、入学者は１０２人です。定員が割れているのは夜だけで、２２人となっています。

野呂部会長
　定時制に入っているのは勤労学徒ではないという事ですね。
　地区の特色があると思うのですが、青森、弘前、八戸であればアルバイトがあるのでしょうが、それ以外ではなかなか無いのでしょうね。

Ｂ委員
　黒石高校にも定時制はあるのですが、昼のアルバイトは女子はいくらかあるが、男子はまずないという状態ですので、やはり定時制が必要な面があるのでしょう。

Ｄ委員
　やはり地域に数多くあるようであれば、統廃合は必要だと思います。

野呂部会長
　地区に定時制は必要だという事でよろしいですか。

Ａ委員
　授業は何時に終わるのですか。

野呂部会長
　９時くらいでしょう。

事務局
　尾上総合高校は昼間定時制なので、４時くらいには終わると思います。

Ａ委員
　夜間定時制であれば、６時から９時くらいまでですか。

事務局
　５時半くらいから始まると思います。

Ｃ委員
　以前は岩木高校が昼間定時制でした。あの頃は結構ありました。

Ｂ委員
　全日制を終わった人と定時制を終わった人の就職率は出ていますか。

事務局
　就職率そのもののデーターはありますので、どこの学校が何パーセントと区分けはできますが、進学する人間が多いか少ないか、就職を希望してできない人間とできた人間の区分けの裏付けはどうするか、などがありますから、単純に進学した人、就職した人、何もしてない人、という区切りで数字は出ますが、その思いまでは調べられませんので、そういう意味ではイメージとしてはなかなか就職の所までは難しいです。

Ｃ委員
　工業高校の定時制の役目は終わったのかな、と思います。金の卵の時代と今の時代とは大分違いますので、職を身に付けるという意味であれば、弘前に高等技術専門校があるのでそちらを利用すればいいのです。あとの工業高校以外の定時制についても、単にカリキュラムを消化するのではなく、卒業する前に国家試験等を受けながら、卒業した後の対応もできるカリキュラムを組む必要があると思います。

野呂部会長
　それでは、定時制についてはこれくらいでよろしいでしょうか。生徒の多様化という事があるのでやはり残すべきだが、金の卵時代は終わったという事を考えると、工業高校の定時制はどうあるべきか考えざるをえない、という事でしょうか。
　次に第２専門委員会の部分に入ります。

竹林副部会長
　中高一貫教育について、平成１９年度に十和田市に１校導入というのはどこの事ですか。

野呂部会長
　三本木高校附属中学です。現在行っているのは連携型の中高一貫教育で、大湊高校と田子高校ですが、今度の三本木高校は併設型です。現在この地区で中高一貫教育は県立ではありませんが、私立高校の聖愛高校でやっています。

竹林副部会長

設置については様子を見たいと思います。田子高校では入れるからとそこに行くのですが、大湊高校ではもっと栄えている学校が近くにあるので、成績が上がるとそちらへ逃げてしまうという事です。ですから西北地区でやるとすると、五所川原高校とどこかでないと生徒が逃げてしまうので意味が無いのです。また、変にやると小学校からそこに集中してしまいます。本校では来年度の学区外就学が３０人をもう超えています。そのような状態なので、今はどんどん受け入れる状態ですが、何らかの歯止めが無くてはいけません。西北地区では、三本木高校の例を見て３年後くらいに考えてもいいと思います。

野呂部会長
併設型ですか。連携型ですか。

竹林副部会長
併設型は今年初めてですので、３年くらいは経たないと分からないと思います。

野呂部会長
併設型は今年の春から入学する訳ですから、様子を見る必要があるだろうという事でよろしいですか。

Ａ委員
受験校の私立学校であれば、小中一貫教育でレベルを上げようと必死にやりますが、必ずしも上がらないのではないでしょうか。一旦入学してしまうと高校まで行けるという安心感で、勉強しなくなる事もあるのではないですか。

竹林副部会長
ですから、カリキュラムを工夫して行かなくてはいけません。

Ａ委員
受験校では高校１年で高校３年の分まで終わって、あとはテストを繰り返すという事を行っている学校もあると聞いています。青森県でもカリキュラム等を工夫してレベルアップを図り、日本全国で活躍できる人材を育てる事が必要だと思います。

野呂部会長
東京大学への入学者は、昔は日比谷高校等の公立が多かったのですが、今は中高一貫の私立高校が占めていますね。

Ａ委員

今回の話題からは外れるかもしれませんが、学校のレベルをもう少し上げる方法は無いものかといつも思います。いい生徒は徹底して伸ばして、中央で活躍できる人間を育てるという事に焦点を合わせるような教育方法を考えてはどうでしょうか。青森県全体でも東京大学へ１０～２０人しか入りませんが、中央では１校で何十人と入学します。どうしてそんなに差が出るのでしょうか。結局のところ、国の予算を付ける際にもその影響が出てくるものだと思います。米沢地区などでは親が食べ物を節約してでも、子どもに教育を受けさせるのに一生懸命だと聞きます。青森県は東北の中でも、教育に関しては少し違うな、という魅力的なシステムができないものでしょうか。

野呂部会長
併設型中高一貫教育は受験だけが目的ではないでしょうが、そういう目的も恐らくあるのでしょう。

Ａ委員
逆に安心して勉強しなくなってしまう事が無いようにしながら、その制度を広めて行くのも方法かもしれません。

野呂部会長
連携型では、やはりそうなる可能性もあるでしょう。

事務局
連携型と併設型の違いは、連携型は別々の学校で設置者も違いますが、ただ入学試験を通過しなくても基本的に希望すると連携する高校には入学できます。併設型は設置者が同じで、中学校の入学時に適性検査を行いますので、そこに入る時点で目的を持って試験を通過した子が高校へ行く事になりますので目的意識の持ち方がかなり違います。実際に見てみないと分かりませんが、三本木高校に通いたいと考える子ども達が中学から積み上げて勉強して行きますので、途中でドロップアウトという事はそれ程無いと思います。連携型であれば中学校の段階で希望するだけでほぼ無条件で入れますので、高校まで道が確保されてしまうという意味では意欲付けが難しいという事はあります。

Ａ委員
高校、大学と状況は異なりますが、例えば早稲田高校から早稲田大学に入学するのは、どちらかと言うと併設型に近いのですか。

野呂部会長
附属でしょうが、成績によって行ける学部は違うでしょう。

事務局
　ある程度の成績であれば行けると思います。

Ａ委員
　そうすると併設型という事ですか。

事務局
　大学まで行く場合の高校となると併設型に近いと思いますが、中高一貫教育とは少し違うと思います。

野呂部会長
　今連携をやっている学校でも、大学と高校は結びついていませんので。併設型の場合は、ある程度６年間をきちんとしたカリキュラムで継続してやる事ができると思います。ただ、連携型はそうではありません。

事務局
　連携型では、地域で子どもを育てるという事が意識としてあると思います。

Ａ委員
　分かりました。

野呂部会長
　全国的にはどうなのですか。

事務局
　併設型が増えています。この他に中等教育学校という事で、中高が直接６年間連続して１つの学校になっている学校も若干は増えてきています。連携型は既にほとんどの都道府県が始めているので、新たに始める所は少ないと思います。ですから、これから増えるのは併設型だと思います。

野呂部会長
　中等教育学校となると、全く新しい校舎でやるのですか。

事務局
　必ずしもそうではありません。ただ、高校と中学の人数が同じでなくてはいけませんので、それだけの数を確保しなくてはいけません。高校を４学級維持するには、中学校も４学級必要なります。

野呂部会長
　附属みたいな形ですか。

事務局
　併設型は、中学校よりも高校の人数が多いので他の学校からも入学します。連携型は高校に入る時に試験がありません。

野呂部会長
　先程の話のように、学校のレベルを高め中央で活躍できる人材を育てる、と考えると併設型がいいのでしょう。他に連携について何か意見はありますか。

竹林副部会長
　やはり、三本木高校附属中学の様子を見たいと思います。

Ｂ委員
　津軽地方にあってもいいのではないでしょうか。

Ａ委員
　色々な意見を聞くと、中等教育学校もいいのではないかという感じもします。教育目標に沿って６年間同じ先生が教えるという事もあり、いいのではないでしょうか。

Ｃ委員
　今の状態を否定する訳ではありませんが、外から見ると義務教育の先生と高校の先生のコミュニケーションと言いますか、お互いの意思疎通がほとんど無いと感じます。最近は少しは改善されたと聞いていますが、色々な先生の話を聞くと本音と建て前の違いがあります。何らかの形で、１月に１回でも連携の方策についての会議と言いますか、先生方の交流の場のようなものはあってしかるべきだと思います。現場の話をしますと、義務教育の先生が高校の先生をけなし、高校の先生が中学校は教育してきていないとけなす、その差を埋めてやる事によって大分問題が解決できるのではないでしょうか。

竹林副部会長
　全部ではありませんが、教科によっては研究会なども活発で少しづつ溝は埋まっていると思います。当校の校内研究でも、五所川原高校の先生へも案内しています。

Ｃ委員
　それが必要なのだと思います。

野呂部会長
　だんだんに多くはなっていると思います。

Ｃ委員
　それはいい事です。中学校の英語科の先生が高校の英語科の先生と交流があり、自分の受け持った生徒が今どうやっているか分かると、かなり良い部分が出てくると思います。

竹林副部会長
　本音を出すまでは、あと２～３年はかかると思います。

野呂部会長
　中学校と高校の先生も交流の場があってもいいのではないか。津軽地区に中高連携の学校があってもいいのではないか。中央で活躍するような人間が出るように中等教育学校があってもいいのではないか。そういう結論でよろしいでしょうか。
　次に高大連携についてですが、できるだけ機会を設けて連携を進め、大学だけでなく、農業大学校等との連携を進める事が必要だと思います。弘前地区はいいとしても、西北地区は交通の便の問題があります。

竹林副部会長
　弘前大学も国立大学法人になってから非常に積極的になっていて、今までの教員養成から考えを変えたようです。今までは教員に対してほとんど指導をしてこなかったのですが、これからは地域と連携して行きますという話をしていました。それも場合によっては、大学が旅費等を負担して、向こうから出てくるという話でした。

野呂部会長
　昨年辺りから大分積極的にやっているようです。高大連携はできるだけ進めるべきだ、という事でよろしいですか。
　全体的にでも言い残した事はありますか。無ければこれで協議は終わりたいと思います。

●閉会

司会
　長時間にわたり、ありがとうございました。これで会議は終了しますが、事務局から何かありますか。

事務局

**　次回の開催は６月の予定です。その際には検討会議からも中間報告が出ていますし、ある程度はまとまった形になっていると思いますので、それに対して地域の考え方などを教えて欲しいという事になると思います。まだしっかりと計画を詰めている訳ではありませんので、近くなった段階で再度お知らせします。**